

AIケアプラン・介護記録ソフト CareViewerとIoT等汎用機器と のデータ連携機能についての開発

介護事業所の生産性向上に向けて

介護事業所は慢性的な人手不足に苦しんでおり、さらにコロナ禍によりこれまでにない対応にかかる多大な経費や時間が発生し、従来以上にコスト削減や生産性向上へのニーズが高まっている。加えて、現状において介護現場へ向け開発・提供されている介護記録ソフトウェアやバイタル測定機器などは他社製品とのデータ連携ができず、別々のソフトウェアに対し同じ情報を登録する必要が生まれるなど、煩雑な事務が生じている。

株式会社さくらコミュニティサービスは、札幌市を中心に介護サービス事業や、人材の派遣・教育事業などを行っている。同社は介護事業所でありながらソフトウェアの自社開発体制を有しており、本事業において自社製品であるAIケアプラン・介護記録ソフトCareViewerにデータ連携機能を開発することで、上記のような課題の解決に取り組んだ。同ソフトがIoT等汎用機器とデータ連携することによって、現場の負担を大きく削減することができる。

より質の高いケアの実践を目指す

近年、厚生労働省の主導によりエビデンスに基づくケアの実践が推進され、その一環として2021年より国に利用者の状態をデータで提出することで事業所に報酬が入る仕組み(通称:LIFE)が導入された。CareViewerは介護ソフトとしてLIFEと連携できる記録ソフトであり、導入により現場の生産性が向上するだけでなく介護ビッグデータの利活用ができ、ひいてはより質の高いケアの実践につながると考えられる。

代表の中元さんは「介護業界のイメージを変えるためにも、ICTやITの導入に積極的に取り組んでいる」と話す。新たなCareViewerはプラットフォームとして応用範囲が広がっていくだろう。複数のソフトウェアとデータ連携することで、利用者の情報をリアルタイムで家族に伝えられるなど、コミュニケーションの質の向上も期待できる。現場からは「もう紙には戻れない」と喜びの声があがった。今後は訪問や通所サービスの現場での活用も視野に入れ、更なる改善に取り組む。



AIケアプラン・介護記録ソフトCareViewerに
入力する様子



介護職員にヒアリングを行うソフト開発担当者

より質の高いケアの実践のため、
更なる工夫を続けていく



代表取締役兼CEO
中元 秀昭

介護を憧れの仕事に

新たにオープンプラットフォーム介護記録ソフトへと高度化したCareViewerが、自社だけでなく多くの事業所の生産性を向上させ、利用者のケアの質を高めることができるよう、現場からの声をいただき更なる改良を続けます。

株式会社 さくらコミュニティサービス

新しい健康的な価値を世界へ

「高齢者生活支援」「介護人材の養成」「就業サポート」のほか「グローバル人材支援」「ITソリューション開発」「子育て支援」の事業を展開。

設立 平成14年9月

従業員数 307名

代表者 中元 秀昭



札幌市北区北40条西4丁目2番7号

TEL 011-716-3987

FAX 011-708-8295

<https://sakura-cs.com>